# 日米、「キーンソード21」で技量・連携を強化

*U.S., Japan Sharpen Skills During Keen Sword 21*

November 12, 2020

By Staff Sgt. Gabrielle Spalding
374th Airlift Wing Public Affairs

第374空輸航空団と第353特殊作戦群の部隊はこのほど、自衛隊や関東平野の共同パートナーと共にさまざまな任務を達成し、日米間の二国間作戦の強化を図った。

在日米軍司令官ケビン・シュナイダー中将は、「運用と連携の新たな方法を確立する中、こうした演習は日米同盟の強化を示している。新型コロナウィルスが世界的に甚大な影響をもたらしている中でも、日米同盟は衰えることなく、戦い、任務を達成する準備ができている」と述べた。

日米同盟の継続的な発展には、コミットメントとチームワークが必要だ。第374装備即応中隊、第36空輸中隊、第730航空機動中隊に所属する隊員は、日本のパートナーと連携を図り、作戦計画、人員投下、物資検査、アップロード、空中投下などの作戦を成功させた。

第374装備即応中隊戦闘機動小隊監督官のジョシュア・バイエガ軍曹は、「これらの演習で貨物の積込みや空中投下を行うことは、我々とホスト国の間の戦闘準備態勢を強化するために重要だ。それにより、実際に何か起きた時には、迅速かつ正確に必要なものを航空機に搭載し、目的地に届けることができる」と述べた。

「キーンソード21」では、第353特殊作戦支援中隊、第753特殊作戦航空整備中隊、第21特殊作戦中隊、第320特殊戦術中隊間の非相互的な訓練も行われ、キャンプ富士総合軍事演習場での夜間捜索救助、横田での高速ロープ・ホイスト訓練などが行われた。

また、金属製のバレルを使って森に緊急着陸した航空機を再現し、捜索救助のシナリオの一環として第753特殊作戦航空整備中隊の隊員は負傷者や部隊から孤立した隊員を演じた。特殊戦術中隊のチームは、陸上航法（ナビゲーション）技術を駆使して孤立した人員の位置を特定し、待機中のCV-22オスプレイまで安全に移動させた。

「キーンソードは、特殊作戦群に捜索救助や戦闘捜索救助をより大規模に練習する場を与えてくれる。また、同演習に米空軍の様々な軍用機が参加している中、我々（CV-22）も大規模軍事演習に参加できる機会を得ることができた」と、第353特殊作戦支援中隊生存・回避・抵抗・脱出の専門家であるショーン・ムーア技能軍曹は述べた。

特殊作戦部隊がこの演習に参加したのは今回が初めてだった。横田基地と嘉手納基地に部隊を置く第353特殊作戦群は、自衛隊のパートナーとの訓練を見学したほか、チャーリー中隊、第1大隊、第1特殊部隊群（空挺）、USSロナルド・レーガン（CNN76)との合同訓練を行った。

キーンソード21は、過去60年に渡り、日米同盟がインド太平洋地域の平和と安全保障の基盤を維持し続けるための役割を担ってきた。

「キーンソードに参加する中で、我々は軍組織としてのスキルを磨き、いざ実行する時のために準備ができていることを確かめている」とバイエガ軍曹は述べた。